

## 色彩應用論

榕村主人

### 〔五〕 岩石と水

岩石と水とは繪畫の前景の大部分を占めるものであるから、これを研究してスケッチする必要がある。素より地質學の細目に入るの要はないが、その大體に渡りて、岩石等の繪畫的の外觀を極はむる必要はあるのである。

前段樹木の條で説いた如くに、岩石を描くにも、其種類の異なるに従て描法も異にせねばならない。岩石といふも常に其石質の色を呈しては居らない、風雨の爲めに蘚苔蒸したり、或は其他の影響で外觀が全く變つて居るのもあるのである。

岩石を研究するには、海岸または溪流にありて水の爲めに洗はれて居るのが可いのである。これは土や植物の衣を剥取られた赤裸々のまゝを觀察することが出来るからである。トウイニング氏曰く、『凡そ岩石の大部分の著しい特性を見るには、先づ地層の如何を檢するにある。この地層の如何は遠方の山でも、肉眼を以て判じ得られる。其岩石の性質から及ぼす影響や、或度までは形狀等も見えるので、山の傾斜の度や地層の淺深等をも極めることが出来る。例之は赤砂石で種々な形の山を覆ふて居る場合には、その著しい點といふのは、頂きが平坦で、深い峭壁の間に緩い傾斜の平原がある。この平原の傾斜は常に赤砂石の地層で平行して居るものである。』山や地面の崩潰した跡等は、この地層やその上を覆ふて居る植物等を研究する好機を與ふるものである。また道路の切割りも然りである。

岩石もその種類に依て、これを繪とするのに、性質が明確であるとないとがある。例之は石盤石の如きは、層の發達も著しく、形等も他の岩石と異つた處がある。總してこの種の岩石は種々の方面から見れば、各形が變はつて居る、一方は廣く見える、他方からは無數の縞があるといふので、色彩は冷い鼠色であるが、層の並行した線等が、兎に角に甚だ美しいものである。



花崗石は普通角ばった形であるが、永き歲月を風雨に晒されたものは表面が滑で圓形となつて居るものもある。色は二種あつて、一種は冷い鼠色で一種は暖い鼠色である。共にその色は色彩の小さな點々から成つて居つて、遠方から見ると全體に色があるやうに見える。しかしこの色彩の調子も蘚苔等に依て異なる場合がある殊に濕地にあつたり、一部分が埋れて居つたりする場合に多いのである。

石灰石は其他の岩石に比べて、形や色に變化が多い。最初は冷い鼠色の調子であるが、風雨に曝露されると、漸々に暖かになり、豊富となる。かくなると風景の美を一層高めるものである。ターナーの筆、「ラルウオース、コーヴ」はこの石灰石を描いた好例で、その波紋、線條を明に寫してある。

砂岩が蒼白な鼠色から變じ豊富な色となつたものは、エローオークルとアイヴォレーブラツク或はエローオークルと少量のインヂゴとクリムソンレーキとで模することが出来る。ブラオンまたはパープルマダーの深い調子にはフレンチブリユーを用ゐ、またはローシーナで變化させることが出来る。

要するに岩石の種類は甚だ多様であるので、一々細目に入りて悉く模寫することは不可能であるから、能くその岩石の特性を見て、これを腦裡に明確な印象を刻して、それを描くのが可いのである。勿論岩石の自然に對して寫せといはゞ足るのであるが、初學者に對しては猶一言こゝに述ぶるの要はあるので、岩石の通有の特性は、角だつた形で、硬性で、不透明であるので、これをば必ず線と色彩とで模されなければならない。實はいふと水彩繪具は油繪具に比して岩石を描くにはあまり宜しくないのであるから、周到の注意を以て描かれなければならないのである。(つゞく)